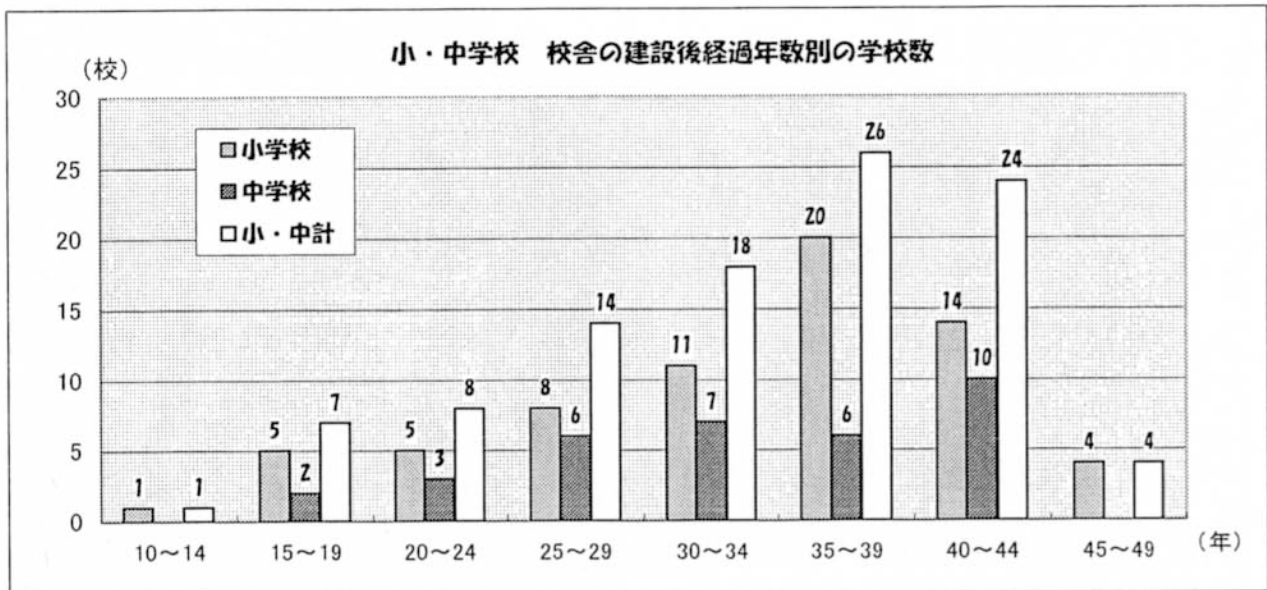


を行うとともに、木造校舎の鉄筋コンクリート化を進めてきました。学校の校舎は、複数回にわたって増築しているため、最も古い建築部分を基準とすると、現在、小・中学校（103校）のうち、建築後30年以上経過している学校は72校（全体の約70%）、そのうち40年以上経過している学校が28校（全体の約27%）もあり、全体として校舎の老朽化が進んでいます。このため、近い将来、校舎の改築が集中することになりますが、現行の国庫補助の基準では、50年を経過した建築部分のみが対象となることや、同時に何校もの改築は財政的に難しいことから、大規模改修工事などにより、校舎の寿命を延ばすなどの工夫が必要です。

また、学校は児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、大規模災害時の避難拠点としての役割を果たすため、耐震性能の向上を図ることも重要な課題です。



※ 経過年数の基準日は、平成16年4月1日

計 102校(改築済の光和小を除く)

2. これからの学校づくり

(1) 豊かな心の育成と確かな学力の向上

学校は、集団生活を通して児童生徒の豊かな人間性や社会性を育て、学力や体力の向上を図る場です。児童生徒は、学級や同学年、異なる学年との交流、クラブ活動や部活動等、様々な機会を通じて、教員との信頼関係や児童生徒同士の交友関係を築き、他人を思いやる心や感動する心をはぐくんでいます。また、学習面においては、児童生徒一人ひとりの学習の習熟度や興味・関心に応じたきめ細かな指導を行うため、教員を加配し、少人数学習集団による指導（以下、少人数指導という）を80校（16年度）で実施しています。今後、さらに、児童生徒の確かな学力の向上を図るため、少人数指導や選択教科の拡大、TT（チームティーチング ※）の活用を進めるなど、授業の工夫・改善を図り、個に応じた指導の一層の充実に努めます。

※ 一斉指導に加えて、適宜、個別指導、グループ指導等を導入し、複数の教員が分担・協力して指導する方法

(2) 特色ある学校づくり

従来、各学校は、地域の特色や人材を生かしながら、特色ある学校づくりに取り組んでいます。さらに、平成17年度からは、より一層の特色ある学校づくりと学校の活性化を図るため、区立中学校の学校選択制度を実施します。今後も、各学校が児童生徒の興味・関心や保護者の

要望等を踏まえ、創意工夫を十分に生かした特色ある教育活動を展開していきます。

(3) 学校施設の整備・充実

総合的な学習の時間での活動や少人数指導など、教育内容や教育方法の多様化に柔軟に対応するため、学校施設にゆとりのあるスペースを確保します。また、屋上・校庭の緑化や環境マネジメントシステムの国際規格(ISO14001)に基づく環境への負担軽減などの取り組みを進め、児童生徒が自然に親しんだり、環境について考えたりすることのできるエコスクールを推進します。さらに、施設のバリアフリー化や耐震補強工事などを行います。今後、児童生徒に、より安全で快適な教育環境を提供し、時代に応じた様々な課題に対応できるよう、学校施設の改修・改築を計画的に進めていきます。

(4) 地域に開かれた学校づくり

従来、各学校は、生涯学習の場や大規模災害時の避難拠点などとして、地域社会と密接な関係を築いてきました。近年では、地域や保護者の協力により、総合的な学習の時間における「体験学習」、学校応援団による「児童放課後等居場所づくり事業」、来校者への声かけを行う「学校安全安心ボランティア事業」などを実施しています。子どもたちは、地域の様々な行事への参加を通して、社会性をはぐくんでいます。また、地域も学校を核として、地域社会を形成してきました。これからも、学校・家庭・地域の連携を図り、今後、適正な配置を行う区立小・中学校が地域コミュニティの核となるよう、開かれた学校づくりを進めていきます。

3. 適正規模

(1) 練馬区における適正規模

教育委員会では、平成15年12月に「区立学校の適正規模検討委員会」を設置し、適正規模について検討を重ねた結果、平成16年3月、区立小・中学校の適正規模を以下のとおりに決めました。

小学校 1校あたり 12～18学級
(ただし、学級規模状況を勘案し、19～24学級までは許容範囲)
中学校 1校あたり 11～18学級

※ 国では、学級数の標準規模を、学校教育法施行規則により、小・中学校とも「12学級以上18学級以下」としています。

学校において、行事や集団活動が活発に行われ、児童生徒が様々な人とのかかわりの中で、豊かな人間性、社会性、創造性を身につけるためには、一定程度の人数や学級数が必要であると考えます。また、児童生徒の興味・関心や地域の特色に合った多様な学習活動の実施および学校運営面の充実を図るためには、一定程度の教員数が必要であり、教員は学級数に応じて配置されることから、一定程度の学級数が必要となります。一方、教室の不足などが生じないようにするためには、一定程度の学級数に抑える必要もあります。

適正規模を確保することにより、児童生徒は、良好な教育環境の中で、学び、成長することができます。